

新収蔵品展 ～絵絹から画紙へ～

近代日本画を変えた男

岩野平三郎 和紙関係資料

H28. 5/20(金)～6/19(日) 6/6(月) 休館

福井県越前市在住の三代 岩野平三郎氏が今年1月に逝去され、初代から代々伝わる和紙関係資料 約1,150点が福井県立美術館に寄贈されました。

今回の展覧会では、日本画が描かれる材料を絹から和紙に変えた奮闘ぶりや巨匠作家との交流について、残された多くの書簡や絵画を通じて紹介します。



小杉放菴 「秋溪」 紙本墨画淡彩



小杉放菴 「珠雞」 紙本墨画淡彩



富田溪仙
「獅子猛進の図」



横山大観 「朝陽」 紙本着色

初代 岩野平三郎(明11～昭35)
大正4年頃から美術紙の開発を始め、大正15年には天平時代の麻紙の再現に成功

二代 岩野平三郎(明34～昭49)
小杉放菴からの麻紙の注文にこたえ続け、法隆寺金堂壁画復元用紙や薬師寺復興写経紙を抄造

三代 岩野平三郎(昭5～平28)
法相宗大本山薬師寺の百万巻写経用紙の調達や桂離宮御殿昭和の大修理に貢献

福井県立美術館

福井市文京3-16-1
TEL0776-25-0452
(県立藤島高校前)

一般・大学生 100円
70歳以上、高校生以下 等 無料
※ 6/19(日)は全ての方が無料